



Leading the Web to its Full Potential...

W3C 組織概要

W3C は、Web 技術の標準化と推進を目的とした、会員制の国際的な産業コンソーシアムです。アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く欧州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)、及び日本の慶應義塾大学の三者がホスト組織として共同運営を行っています。技術仕様の勧告 (Recommendation) としての策定のほか、Web に関する情報の提供、技術開発の促進、新技術のプロトタイプ実装などに取り組んでいます。

W3C の活動

W3C では、ワーキンググループ (WG) が具体的な技術仕様やガイドラインの策定を行います。WG は、主に W3C 会員組織から参加する技術者と W3C の専任スタッフから構成されます。

WG が作成した技術仕様やガイドラインは、会員組織と一般からのレビューに基づいて改善されます。その後、Web の発案者であり、W3C の技術総括責任者である Tim Berners-Lee の決定により、W3C 勧告となります。

それぞれの WG は以下の4つのドメインのいずれかに所属し、様々なトピックを取り扱っています。

● Architecture

Web を支える基盤技術の改善と自動処理の推進

XML / XML Schema / XSL / XSLT / XPath / XML Query / XML Base / XLink / XPointer / SOAP / WSDL / DOM / URI / IRI / 国際化

● Interaction

Web 上の情報に対する新しいアクセス手法の探究

HTML / XHTML / XForms / CSS / WebCGM / PNG / SVG / SMIL / Timed Text / MathML / VoiceXML / CC/PP / Multimodal Interaction

● Technology and Society

Web 上の政策的課題に取り組む支援技術の提供

Patent Policy / Semantic Web / RDF / Web Ontology / Privacy (P3P) / XML Key Management / XML Signature / XML Encryption

● Web Accessibility Initiative (WAI)

障害を持つ人を含むすべての人が使いやすい Web の実現

W3C 技術の検証 / ガイドライン策定 (WCAG / UAAG / ATAG) / 評価・修正ツールの評価と開発 / 普及・啓蒙活動

またドメイン横断的な WG として、W3C 技術の品質保証を確保する Quality Assurance (QAWG) があります。

W3C へのご参加

W3C 会員としてご参加頂くと、以下のようなメリットがあります。

- 技術仕様の提案、策定を行うワークショップ、ワーキンググループなどへの参加
- 会員専用 Web ページやメーリングリストを通じた、規格案などの最新情報の入手
- 研究員の派遣など、人的・技術的交流
- W3C の活動に対し、戦略的な方向付けも可能

現在、400 近い組織が世界各国から参加しています。この中にはコンピュータ産業やインターネット産業、情報産業をリードしている主要な企業が多数含まれています。日本からは 34 組織が参加しています。

Web 技術の全世界的な発展のためには東アジア地区からの会員参加が必要不可欠です。

皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

W3C 慶應

W3C 慶應は東アジア地区担当のホストとして、W3C 会員及び一般向けに、日本語による情報提供や、Web 関連技術の普及・広報活動を行っています。技術面では、特に XHTML 及び HTML や国際化、Device Independence や Quality Assurance などに関する活動に取り組んでいます。現在 8 名がスタッフとして活動しています。

入会希望・お問い合わせなどは、下記までお気軽にご連絡ください。

慶應義塾大学SFC研究所W3C

住所：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤5322

TEL：(0466)49-1170 FAX：(0466)49-1171

E-mail：keio-contact@w3.org URI：http://www.w3.org/